

デジタル教科書の活用について

—国語デジタル教科書の新しい活用の仕方—

光村図書出版株式会社 企画開発本部 半沢 賢治

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/>

キーワード：小学校、デジタル教科書、国語、電子黒板、デジタルテレビ

1. はじめに

平成23年度はデジタル教科書元年といわれ、多くのデジタル教科書が誕生した。その中で光村図書は、平成17年度版を活用していた先生方の要望を取り入れ、新機能や参考資料・動画を充実させた新しいデジタル教科書を発売した。本発表では、実際に新しい機能や資料がどのような形で実践されているかを紹介する。

2. 授業実践の紹介

(1) 全国小学校国語研究大会での実践

平成23年度全国小学校国語研究大会会場校である、浜松市立上島小学校・岡田弘子先生による、読み聞かせの単元、1年『まのいいりょうし』の実践を参観した。

まず教科書の挿絵を使って、どんなお話なのかを子どもたちに想像させた。その後教師が読み聞かせを始めるとき、子どもたちを大型デジタルTVの前に集めた。そしてデジタル教科書の参考ワークシートを開き、「いまからお話を読むね」と教師が言うと同時にスライドショーを再生させた。(写真1) スライドショーには映像と音声が入録されているのだが、音声をミュートにして、まるでスライドショーを紙芝居のように使って教師が読み聞かせた。すると、子どもたちは画面を食い入るように見ながら集中して教師の声に耳を傾けていた。お話を良く聞いて内容を把握している子が多くいたので、その後感想を交流する際、子どもたちの意見がとても活発になった。



写真1. 『まのいいりょうし』

(2) 筑波大学附属小学校での実践

次に、筑波大学附属小学校・青山由紀先生による2年『どうぶつ園のじゅうい』(2学期教材)の実践を紹介する。

『どうぶつ園のじゅうい』は、『たんぼぼのちえ』(1学期教材)に続く説明文であり、下記2点が共通している。

- ・文章全体が3つのまとまりで構成されている
 - ・「わけ」を述べる表現が繰り返し使われている
- そこで、本文の内容を読み取る前に、デジタル教科

書に書き込みを保存しておいた『たんぼぼのちえ』を呼び出し、「ちえ」と「わけ」をマーカーで色分けしたことを再確認した。(写真2)

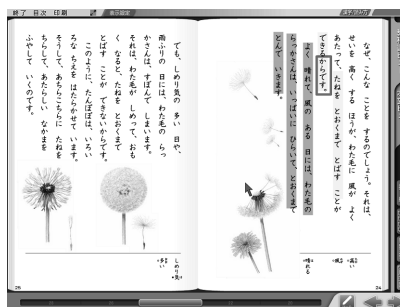


写真2. 『たんぼぼのちえ』

次に、『どうぶつ園のじゅうい』を時間的順序に即して「時」は青、「仕事」は赤、「理由」は黄色と『たんぼぼのちえ』と同じ色のマーカーで色分けして内容を読み取っていった。すると、子どもたちは「理由」の文末表現が同じ事を思い出して、「からです。」を四角で囲むなど、振り返り学習の効果がすぐに表れていた。(写真3)

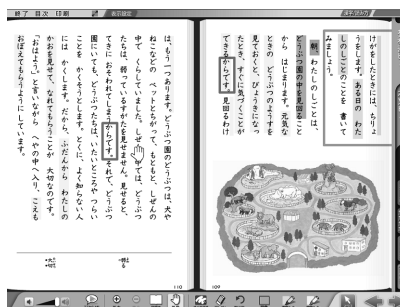


写真3. 『どうぶつ園のじゅうい』

3. まとめ

『まのいいりょうし』では、新しく掲載したスライドショーを使って、デジタル紙芝居のような使い方をしていた。『どうぶつ園のじゅうい』では、まず振り返り学習のツールとして書き込み保存機能を使った。さらに、教科書の背中合わせになっている、紙面の表と裏のページを一画面に表示させるために移動機能を使った。使用されなかったが、新機能として、漢字の筆順スピードの調整や2種類の朗読などもあり、様々な授業シーンでの効果が期待できると考えている。

さらに平成24年度には、中学校版デジタル教科書を国語・英語の2教科で発売する。より充実した授業をおこなうためのツールとして、先生・児童・生徒たちにとってわかりやすく、使いやすいソフトウェアを開発していきたいと考えている。